

附属発生工学実験施設

Laboratory of Embryonic and Genetic Engineering

1995年8月に前実験施設長の勝木元也教授が、1996年4月に助手の中村健司氏、技官の中尾和貴氏（助教授は空席）をはじめとする全てのスタッフが東京大学医科学研究所に配置換えとなったため、全スタッフが空席となった。1996年4月より感染防御学部門の渡邊 武教授が施設長に就任し、1996年度の1年間は、施設長と各部門からの実験施設利用者による共同管理を行うこととなった（1997年度より新たなスタッフを整えて活動を行う予定）。生化学部門の統輝久助教授、作見邦彦助手、遺伝学部門の福井宣親助手、感染防御部門の谷内一郎助手等が中心になり実験施設の運営に当たった。主な活動は、ES細胞への遺伝子ターゲティング、遺伝子標的されたES細胞を用いたジーンターゲティングマウスの作製、ジーンターゲティングマウスの維持、交配及びその解析、トランスジェニックマウスの維持、交配及びその解析であった。共同利用施設としての体制は順調に維持され、毎月1回の微生物検査の結果においてもSPFに近い状態が維持された。本実験施設において飼育、繁殖、交配された遺伝子標的マウス、トランスジェニックマウスを用いた研究成果は各部門から発表されている。